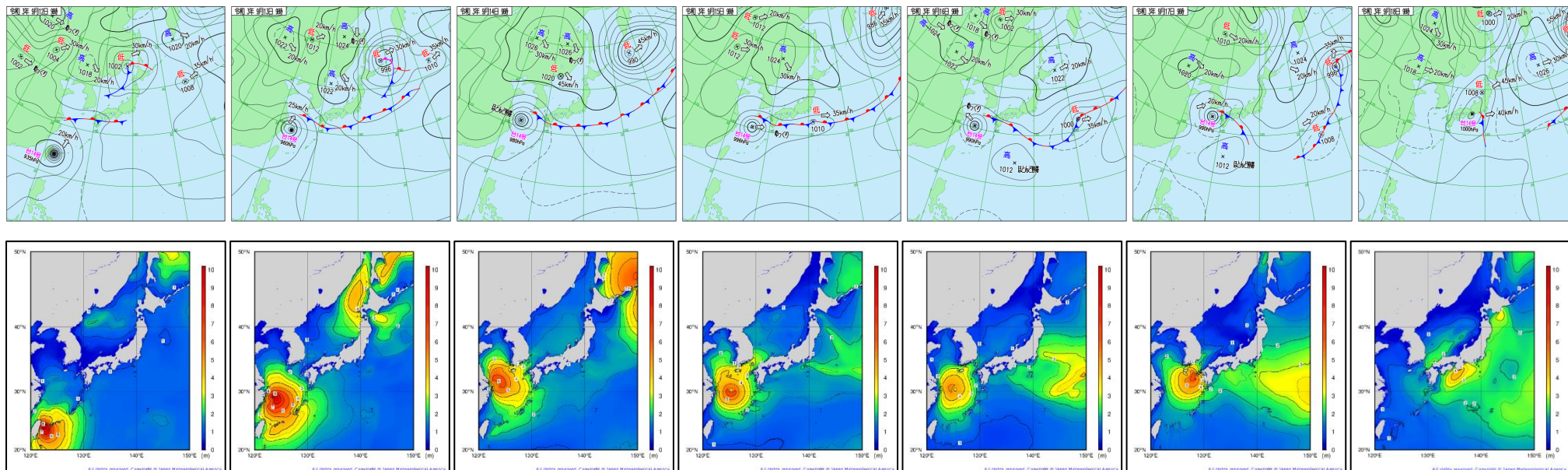


■天気図と沿岸波浪図 (9月12日～9月18日 ※毎日午前9時を掲載)

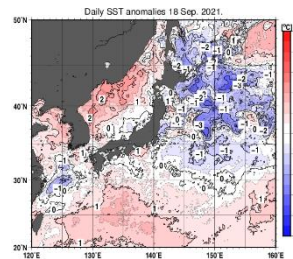


■気圧配置と波

12日、非常に強い台風14号が先島諸島に最接近し、先島諸島は猛烈なしけとなった。13～14日、台風は強い勢力で東シナ海を北上後、停滞した。また、前線を伴う低気圧が千島近海を東進。台風に近い南西諸島～九州や、低気圧に近い北日本でしけとなった海域があった。15～16日、台風が停滞する東シナ海でしけとなった。また、九州～日本の東に延びる前線上を低気圧が東進し、日本の東で次第に波立った。17日、台風は進路を東に変え、福岡に上陸。九州の西で大しけとなった。18日、台風は東海沖に進み、日本の南～東で波が高くなった。

■海面水温

今期末にかけて、台風14号が3日間停滞した東シナ海では、強い風が続き、海面で蒸発が盛んとなったことや湧昇が起きたことで、海面水温が平年より低い状態に変わった。南西諸島近海～四国の南は、平年並みとなった。東海沖は平年より高い状態が継続。関東の東は平年より低い海域が広がった。引き続き、三陸沖は平年より高く、北海道南東方は平年より低かった。オホーツク海は平年より低くなった。日本海は中部では平年並み、他は平年より高かった。



■海流の予想

黒潮は、九州東岸では、引き続き接岸して流れる。足摺岬、室戸岬、潮岬では、引き続き離岸して流れる。東海沖では、潮岬沖を南東に流れ、最南位置は30°N、137°E付近となる。伊豆諸島付近では、引き続き三宅島付近を流れる。房総半島では、引き続き接岸して流れる。

親潮の南限位置は、148°E以東に後退。親潮の面積は、平年より小さいか、かなり小さい。

対馬暖流の勢力は、平年より強い。

